

★ASEAN外相会議について議長国シンガポールのバラクリシュナン外相の記者会見から

8/3 シンガポール

外相会議で合意が達成されたことは喜ばしい。とても良い会議になりました。共同声明を時間より早く発表できました。これは交渉が容易だったというわけではありません。10カ国がそれぞれ多様で異なった考え方をもっているのですから。テキストに全員が合意するのは簡単なことではないし、当たり前と思えることではありません。高官たちが何日も夜を徹して働き、全員が一致する立場を正確に反映した声明に合意したのです。昨日、私とシェンロン首相の演説をお聞きになったと思いますが、私たちはいまASEANが反省点に立っていると考えています。直面しているさまざまな課題に立ち向かう時です。過去70年間私たちが知っている世界は変わりました、いま多極世界に変わりつつあります。

いま世界では、私たちが当然のように考えていた自由貿易と経済統合が後戻りをしています。さらに3番目の理由としてはデジタル革命で、これは私たちの生活様式を完全に変えつつあります。市民たちの仕事と遊び、命と生活、仕事です。これら3つの構造的な変化のなかで、ASEANは適切に対応し続けなければなりません。生活や生活水準の改善にとりくまなければなりません。そこで声明をみればわかるように、これら一連の課題に対応した政策や取り組みをカバーしています。テロや対テロ対策の問題、過激主義や非伝統的な安全保障の脅威、環境問題、国境をこえた薄煙、技術革新で可能になった傍受などの問題があります。すべての国がともに刷新できるような創造的な協力体制の課題もあります。私たちはまた自由貿易体制と多国間機構への信頼を、70年間、東南アジアの平和と安定をもたらした様式として再確認しました。

もう一点、私たちはASEAN中国ポスト閣僚会議を終えました。ここで単一のCOC（行動規範）交渉案文で合意しました。明確にしますとこれで交渉が終わったわけではありません。しかし、すべての問題を単一の草案に落とし込むことができました。この草案が今後の交渉の基礎になります。もちろん、すべての領土問題が解決したわけではありません。COCができたからといって領土紛争が解決するわけではないのです。COCの意味するところは、平和と安定、信頼醸成を確保する行動規範と作ることで、ASEANと中国の間で集団的な進歩を作り出し、時間を稼ぎながら領土問題に取り組むことができるようにしようというものです。ですからこの点がこの問題での大きな成果です。もう一つはASEAN中国パートナーシップ2030のテキストを完成させました。これは両者の関係の長期的な方向を示すものです。付随的になりますが、これでシンガポールがASEAN中国関係のコーディネーターを務めた3年の任期が終わりますが、大変嬉しく思っています。3年間を非常に積極的な文書をまとめることができました。それでは質問を受けます。

Q 外相は以前にCOCの法的な問題で合意したとおっしゃいましたが、それはどのようなものでしょうか。合意した文書案は法的拘束性をもつのでしょうか。

A こういうように申し上げることができると思います。交渉の基礎となる単一文書に到達することができた、と。交渉には微妙な問題がありますので、残念ながら、文書そのものをまだ明らかにできません。これが第一、第二は、この交渉終結の期限を設けることは時期尚早だということです。多くの問題がすべての参加国による信頼醸成の樹立や誠実さにかかっています。これはダイナミックな進化する過程なのです。ですから現状では、この段階に到達したことをすべての参加国がよろこんでおり、過程の促進を希望しているといえると思います。しかし具体的な期限を設けるところにいたっていません。こうした交渉の性格からして、柔軟性をたっぷりともって、参加国が閉じ込められ、自国の利害が踏みにじられたと感じることがないようにすることがよい場合があるのです。

(サイバー安全協定についての質問) (略)

(シンガポール外務省 HP)